

故人と遺族の大切な時間に寄り添う

復元納棺師(復元・納棺 株式会社 桜代表取締役)

笹原留似子さん

震災後、沿岸地域で復元納棺のボランティアを行った笹原さんの活動は、新聞やテレビで広く紹介されました。復元納棺とは、遺体の傷を修復し本来の姿に戻す作業。津波の被害による遺体は大きな損傷を受けており、市内で復元納棺業を営む笹原さんは、少しでも生前の笑顔を取り戻そうと奔走しました。

「火葬までのわずかな時間に家族で思い出を作ることには、亡くなった人にとっても遺族にとっても大切なことなんです」。残された家族にとって、その時の思い出がこれからの一歩を踏み出すお守りになると笹原さんは言います。

人々を表彰する「シチズン・オブ・ザ・イヤー2011」を受賞しました。現在は遺族の心のケアのため、大槌町でボランティアを続けています。



その一つ、仮設住宅や談話室での「お茶つこの会」は、緩和ケア専門医自らがお茶を出すという意外な場。お医者さんが同じ目線で話を聞いてくれるとあり、幼児から高齢者までが集まってくるそうです。遺族の心のケアには納棺師ではなく専門医の力が必要と感じた笹原さん。信頼を寄せる緩和ケア医に相談し、そのネットワークで全国から医師がボランティアをしています。緩和ケアにこだわったのは、

死に近い立場から生きるための支えになってくれるから。この力が震災遺族にも必要と思ったそうです。「内陸に避難した人たちは沿岸に戻りづらいと聞く。ふるさとに戻るきっかけとしても、ぜひお茶つこの会に来てほしい。誰でも参加して」と呼びかけます。(3月は3日、10日、17日に大槌町上町ふれあいセンターで開催)

復元納棺師の真剣な表情とよく笑いよく話す気さくな性格のギャップがまた魅力です。

国際交流ルーム発



ハロー! まいふれんど ⑬ 「ラミントン」ってどんな味?

2月4日、バレンタインデーを前に、オーストラリア出身のハウエル・ウェイドさんからオーストラリアの伝統的なお菓子「ラミントン」作りを習いました。オーストラリアの1カップは250cc、大さじ1は20gと日本の量と違い換算するのに手間取りましたが、5カ国32人の参加者は、ココナッツパウダーいっぱいのオージーテイストを味わっていました。名前の由来はクウィーンズランド州知事を務めた



オーストラリアの伝統的なお菓子「ラミントン」の作り方を説明するハウエルさん(左から2人目)

ラミントン男爵で、どこの家庭でもよく作られる人気のあるケーキだそうです。チョコレート味のほかいちゴやクリーム味もあるそうです。ウェイドさんはパブロバ(同じく伝統的なケーキ)にも挑戦してみたいと意気込んでいました。



チョコレート味のラミントンの出来上がり!

国際交流ルーム

電話・ファクス: 63-4497

電子メール: kiah@kitakami.ne.jp

おでんせプラザぐろーぶ3階 生涯学習センター内

開館日: 毎週月-土曜日 午後1時-7時

休館日: 日曜・祝日、第3水曜日、年末年始



中央図書館 ☎ 63-3359 江釣子図書館 ☎ 77-2215 和賀図書館 ☎ 72-2322
中央図書館のホームページ <http://www.library-kitakami.jp/>

《2月の新着本から》

- ▼一般書
- 不惑剣 高橋 克彦
すぐ書ける確定申告 須田 邦裕
海が呑む 3.11東日本大震災までの日本の津波の記憶 花輪 莞爾
年老いた猫との暮らし方 ダン・ポインター
天晴れ！盛岡文士劇 道又 力 編・浅田 次郎ほか著
- ▼児童書
- ようちえんにいくんだもん 角野 栄子 文 佐古 百美 絵
たんじょうびおめでとう！ マーガレット・ワイズ・ブラウン
希望の筆 ダウン症の書家・金澤翔子物語 丘 修三

《おすすめ新着本》

『奇跡の美容室』



鈴木 勝裕 著
ダイヤモンド社

これを知らなければ潰れていた…。0.85%しか使われていない「経営革新計画」とは？原宿のカリスマ美容師ブームを作った著者が、「中小企業のための知られざる制度と法律」の活用について実体験から説く。

『ねむるまえに』

アルバート・ラム／作
デイビッド・マクフェイル／絵
木坂 涼／訳
主婦の友社



“ねむるまえまえあそび”をしようよ…それは、どこのおうちでもできる、ねむるまえの、新習慣。幸せなねむりを誘う、ベッドタイムストーリーが誕生しました。

《3月のイベント情報》

■おはなし会

- 3月11日(日) 午前11時～11時30分 中央図書館
3月18日(日) 午前11時～11時30分 和賀図書館

■こども映画会スペシャル

- 3月22日(木) 午前10時30分～11時30分 中央図書館
3月23日(金) 午前10時～11時 江釣子図書館
3月24日(土) 午前10時30分～11時30分 和賀図書館

石垣島マラソン
昨年10月開催した「いわて北上マラソン」に、中山石垣市長が10キロ区に出場したことは、報道で知っている人もいるだろう。去る1月20日の石垣島マラソン時に、中山市長への返礼を兼ねて、いわて北上マラソンの岩手県代表など3人と石垣市を訪問した。石垣市は花巻空港から、かけはし訪問団のチャーター機で約4時間。沖縄本島よりさらに南で、台湾が目と鼻の先にある。着陸前の機内から見える海は青く澄み、真っ白なサンゴ礁の砂浜が美しい。ここはかつて岩手県が冷害に見舞われた際、「かけはし」と命名された種もみを生産してくれたところであり、おかげで翌年の田植えができたことでよく知られる。昨年他界した元岩手県副知事、故高橋

珈琲ブレイク ②



洋介氏を中心に、活発にかけはし交流が続けられてきた。そのためか、石垣市民の一人一人はそのことをよく知っているようで、会う人ごとに感謝の言葉をいただく。何でも、この交流で米の三期作が可能であることが分かり、今では普通に三期作を行っているというのである。お世話になった岩手県民である私たちが感謝するのが筋だと思ったが、驚いたと同時にうれしくもあった。来月1月の石垣島マラソンでは、高橋氏の顕彰碑を建てようとする活動をするそう、本当にありがたい。私たちが到着したのはマラソンの前々日。中山市長を表敬訪問した後、石垣・岩手かけはし交流協会主催の歓迎会に参加した。着席すると乾杯前にもかかわらず、すぐに飲み食いが始まった。沖縄では普通のことだそう。料理は東北の味に似ているためか、何でもおいしくいただけ。特に海ブドウの軍艦巻きは初めてだったがおいしかった。2日目、石垣市の職員が自ら運転して島の主要な場所を案内してくれた。(つづく)